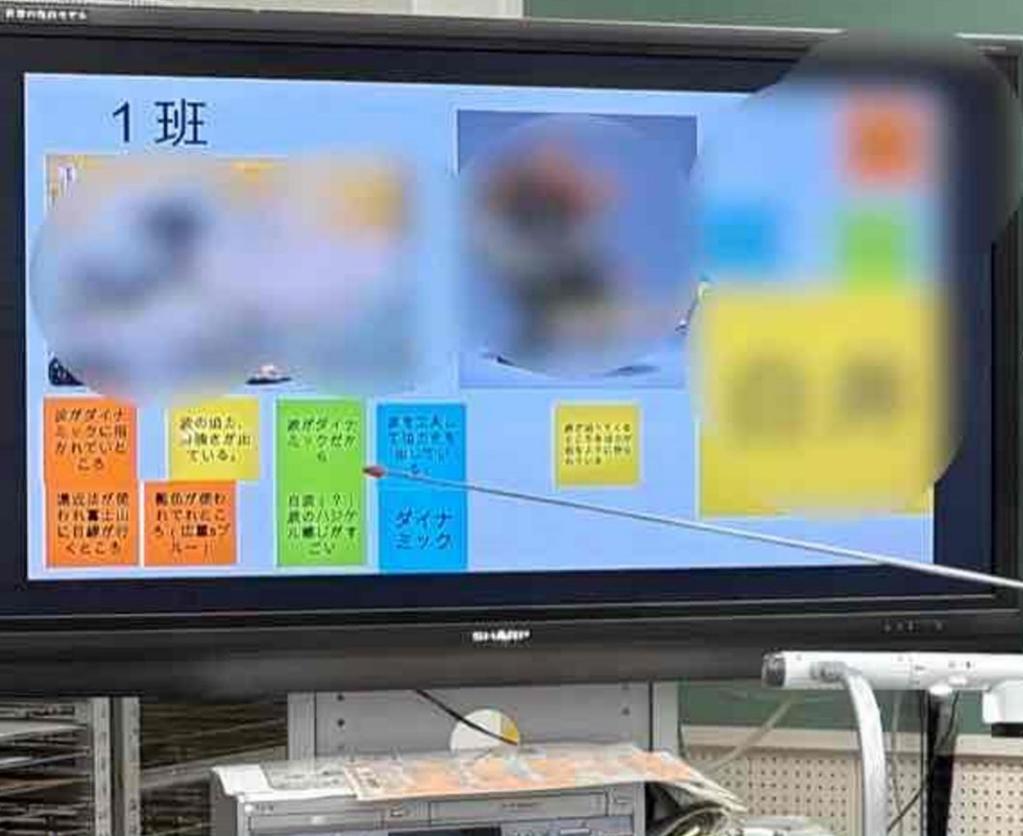


中学校第3学年 美術



作品を鑑賞し感じ取ったり考えたりしたことを、端末から教師に送り、互いの意見を確認して、様々な視点や考えたことに気づき、更に作品を鑑賞して見方や感じ方を深める。

中学校第3学年 美術「ジャポニスムってどんなこと？」

■ 題材の目標

余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴を基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などからよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や美術文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図や創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。また、美術の創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、美術を愛好する心情を培い、美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとする。

■ 題材の概要

浮世絵と印象派の美術作品等を比較して鑑賞し、相違点や共通点に気付き、ジャポニスムに関する浮世絵と西洋の美術作品等との関係、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

■ 題材の指導計画（1時間）

第1時

・導入で、浮世絵と西洋の美術作品等のカードからペアを考えて、選んだ理由を端末に記入しクラウドから教室のモニターで全員分を映し発表する。

・二つの作品を比較し、西洋の人が浮世絵から影響を受けた点について話し合う。

・ゴッホの手紙を紹介し、自分たちの考えたこととともに、もう一度作品を鑑賞して、感じ取ったり考えたりしたことを端末を活用しまとめ、授業の最初に感じたことや考えたことと比較する。

■ 題材の内容の概要（指導上の留意点）

浮世絵と西洋の作品をそれぞれ選び、自分が感じ取った作品の特徴や表現の創造的な工夫の共通点などを端末に記入し、教師がクラウドからモニターで映す。他の生徒の意見を知ること、様々な視点や考えに気付く。

生徒の意見を取り上げながら、どちらが先に描かれた作品であるかなどについて考え、浮世絵が西洋の美術作品等にどのような影響を与えたのかについて話し合う。

ゴッホの手紙やジャポニスムに関する情報を教師が説明し、ここまで考えたことと合わせて、浮世絵が印象派にどのような影響を与えたのか再度鑑賞して考える。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿

【学習活動の場面】

日本美術の浮世絵と西洋の印象派の作品を鑑賞して、表現の意図や創造的な工夫などについて考えたり、それぞれの相違点や共通点に気付く、浮世絵と印象派の関係など美術文化について考えたりする学習場面である。まず、**浮世絵と印象派の様々な作品を鑑賞し、共通点のある作品を選び、その共通点について端末に記入し、それをモニターで映すことで様々な視点や考え方があることに気付く。**その後、共有した様々な考えや情報等を踏まえさらに鑑賞することで、見方や感じ方を深めていく。

【子供の「深い学び」の姿】

○浮世絵と印象派の作品から共通点のある作品を選び、その理由について発表する。

A「色や構図が似ている感じがするね。」

B「描いているものがよく似ている気がするな。」

○生徒から出てきた意見から、様々な視点や考えを確認し、浮世絵が印象派に与えた影響について話し合う。

A「どちらも手前のものをより大きく描いているからか！」

B「確かに！色や構図に着目すると、影がなくて、明るい配色、とても細かい表現をしているものがあるな。」

○出てきた意見とゴッホの手紙の紹介などから、更に考える。

A「当時の西洋の人は、浮世絵の大胆な構図に驚いたんだろうな。」

B「浮世絵が、印象派に大きな影響を与えたんだ。」



■指導上の工夫とICTの利活用

①生徒が先入観なく作品を鑑賞できるよう、作品に関する情報を事前に提示しないことで、活動後の自身の変化に気付くやすくする。

②同じ作品に関する異なる観点からの意見を、観点ごとに整理し、それぞれ取り上げることで、自分とは違う視点や考えに気付くことができる。

* 端末からモニターに提示した友達の意見から様々な視点や考えがあることに気付く、それを基に生徒が更に鑑賞したくなるように指導の工夫をしている。

③他の意見や参考となる情報を知ることから、更に作品を鑑賞して見方や感じ方を深める。

* 他の意見や参考となる情報を踏まえ再度鑑賞し、考えたことを端末にまとめて、①の記述と比べることで、生徒自身の変容を自覚できるよう工夫をしている。

【当該指導での「深い学び」】

Aは**作品を鑑賞して、浮世絵と印象派の作品の共通点について感じ取ったことを、端末を活用しクラウドに上げて発表した。次に、クラス全員の意見をプロジェクターで見て、様々な視点や考え方について気付いた。その考えや得た情報などから更に作品を鑑賞し、浮世絵と印象派の関係などについて考え、見方や感じ方を深めていった。**

その際、教師は、生徒が余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることに加え、作風や様式などの文化的な視点で捉えることを意識できるようにしていた。

【活用したソフトや機能】 ジャムボード

学習指導要領や解説との関連

中学校学習指導要領 第2章 第6節 美術

第2内容 B鑑賞（第2学年及び第3学年）

イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。